**事務局**

事務局長 若林　正幸

財務委員長 辻　　裕登

事務局次長 木田　智晴

**1）基本方針**

青年会議所においても、ダイバーシティの実現は、組織に活力を与えるとともに、会員の多様なニーズに対応できるなど、組織の持続可能性を高めます。近年、会員のライフスタイルは多様化し、活動のために割くことのできる時間は、会員間で一様でなくなっています。会員が抱える仕事、育児などの事情に配慮しつつも、互いに協力し、積極的に活動へ参画できるような環境を整え、誰もが活躍できる組織運営を実現する必要があります。

まずは、経験の有無にかかわらず、誰もが業務を担うことができるようにするため、業務に関するノウハウやマニュアルを一元的に管理する体制を整備し、他の会員から業務を引き継ぐ際に生じる不都合を減らします。そして、その引き継がれた業務を効率的に遂行するため、それを阻害するような運営方法が採用されていないか、会員から広く意見を聴取し、より合理的な運営方法を提案します。さらに、特定の会員への業務の集中を避けるため、業務の標準化を推進し、必要に応じ、他の会員が代替できる体制を構築します。また、会員数の減少、物価高騰などによる逼迫した財務状況のなか、会員間で現状の認識を共有するために、詳細な財務情報を公開するとともに、会員同士が将来を見据えた議論を交わす機会を設けます。そして、広報においては、会員の将来の活躍の場を広げるため、出向をはじめとする会員の多様な活動の様子を発信します。さらに、一年の集大成として、卒業式を執り行い、卒業生が青年会議所での活動を通じて培った精神を現役会員へ継承し、現役会員が次代の青年会議所運動を担う自覚を高め、新たな視点を得る契機とします。

事務局は、組織が円滑に運営されるように、組織全体を牽引します。正確かつ効率的な事務運営は、会員の信頼を育み、組織の結束力を強化します。効率化と持続可能性とを両立させた基盤整備を行い、組織が未来へ力強く歩みを進めるための確固たる礎を築きます。

**2）事業計画**

1．第126回通常総会 1月12日

2．第一回臨時総会 6月9日

3．第二回臨時総会 7月21日

4．12月度例会（卒業式） 12月6日

5．出向者への支援 通年

6．同好会への支援 通年

**3）事業予算** 319,000円

**4）委員会開催予定日** 毎月第2火曜日

第二回正副理事長予定者会議　2025年10月15日(水)

意見1：1～5行目の内容は会員拡大を担当する委員会が書く基本方針のようにみえるので、事務局らしさを出してください。

対応1：第1段落を見直しました。

意見2：1～5行目の部分でネガティブな内容が多いので、そうならないような表現にしてください。

対応2：対応1と同じ。

意見3：3行目に「退会の一因となったりする」とあるが、役割が増えることで意欲が高まるイメージが強いので本当に「退会の一因となっているのか」確認してください。

対応3：当該箇所を削除しました。

意見4：手法のパートに広報のことが記載されているが、広報が議論の前提となるわけではないので、広報本来の役目を考えてください。

対応4：当該箇所から「広報」という言葉を削除しました。

意見5：手法パートに議事録のことが記載されているが、議事録によって会員同士の議論が促されるというのは違う気がするので、議事録本来の役目を考えてください。

対応5：議事録を作成する目的のうち、最も本質的なものは何かを示しているわけではなく、会員同士の議論を促すために議事録が担っている役割を再評価しようとしています。議事録が正確かつ迅速に共有されることにより、会議に出席できなかった会員も、議論の流れや論点を把握することができるようになります。その結果、情報の非対称性が低減され、会員間の議論が促されると考えます。

意見6：手法パートに財務のことが記載されているが、財務情報を開示するだけではなく、今後の財務の在り方について議論をすることが重要かと思います。

対応6：財務についての記述を見直しました。

意見7：財務について、議論をできるような場所を設えて、全会員が財務の視点をもつことが大事になってくるので、その辺りも踏まえた基本方針にしてください。

対応7：対応6と同じ。

意見8：15行目から卒業式のパートが記載されているが、ここだけ前の文章からのつながりが見えづらいので、つながりがもてるような記載をしてください。

対応8：卒業式についての記述を見直しました。

意見9：日本語として見栄えのよい接続詞となるように全体を精査してください。

対応9： 他の意見への対応の結果、不自然な接続詞の使い方は見つかりませんでした。

意見10：文章全体を通して、話し言葉がはいっている箇所があるので、修正してください。

対応10：他の意見への対応の結果、話し言葉は見つかりませんでした。

意見11：広報は四日市青年会議所のことを知ってもらうために重要な情報源なので、広報幹事を巻き込んでどのような運営方法でいくのかを検討してください。

対応11：広報についての記述を追加しました。

意見12：事務局としてやらなければならないこと、やりたいことを、事務局長主体になって改めて考えて、基本方針を修正してください。

対応12：あらためて考え、他の意見に対応しました。

第二回理事予定者会議　2025年10月29日(水)

意見1：「個別の事情を抱える会員」という文言について、マイナスな捉え方ができるように感じます。どのようなイメージでしょうか。

対応1：当該箇所を削除しました。

意見2：全体的に2025年度までの事務局基本方針と類似するところが多く感じます。次年度の事務局としての特色としての考えがあれば教えてください。

対応2：第2段落を見直しました。

意見3：背景、課題の解決に対して手法が見合っていないように感じます。個別の事情を抱える会員に対して情報開示や共有をすれば従来のスタイルを維持できるのでしょうか。また、従来のスタイルを維持するのであれば時間をかなり消耗するところもあるので、個別事情が増える可能性はないでしょうか。

対応3：対応2と同じように修正をしました。

意見4：L3～L4は手法になるのではないでしょうか。

対応4：第1段落を見直しました。

第三回正副理事長予定者会議　2025年11月12日(水)

意見1：3行目に「誰もが活躍できる組織運営を目指すこと」とありますが、実現ではなく、目指すことでよろしいでしょうか。実現することが大切かと思います。

対応1：第1段落を全体的に見直しました。

意見2：青年会議所は能力を発揮する場ではなく学ぶ場ですので、2行目の「自身の能力を発揮し」というのは少し違うかと思います。

対応2：対応1と同じように修正しました。

意見3：6行目では「建設的な議論の基盤を形成し、」7行目では「誰でも議論に参加できる体制を整える」とありますが、同意義なので表現を一考してみてください。

対応4：第2段落を全体的に見直しました。

意見5：10行目にある「会議準備や報告業務の短縮に…」はデジタル化をしてもそうはならない部分も多くあるので表現を変更してください。また、「迅速に」対応することが時間短縮につながらないかと思います。

対応5：対応4と同じように修正しました。

意見6：10行目「デジタル化…高めます。」までの文章は手法としてまとまりきっておらず、事務局として何を行っていくのかがわかりにくいので、事務局が2026年度に取り組みたいことをもっと考えてみてください。

対応6：対応4と同じように修正しました。

意見7：15行目「新たなパートナーシップの構築」とあるが、表現としては構築ではなく発見が正しいかと思います。

対応7：「新たなパートナーシップの発掘」に変更しました。

意見8：13行目「財務状況の推移グラフを公開し」とあるが、それで財務の意識が高まるとは思えません。これから予算をどのように適切に使っていくのか、限られた予算の中で効果的な運動を生み出すことを議論することが大切なのではないでしょうか。

対応9：「財務セミナーを開催し、会員同士が将来を見据えた議論を交わす機会を設け」ることにしました。

意見10：15行目の広報に関する内容は賛助企業を増やしたい目的があるのであれば、表現がもっと違うかと思います。企業に青年会議所に興味を持っていただく、など、そのような表現かと思います。

対応10：「地域の方々に興味をもっていただけるような情報を発信します」に変更しました。

意見11：全体を通して、多様なライフスタイルの会員が活躍できる方法をもっと模索して基本方針を書き出せれば、さらに良い基本方針になってくるかと思います。

対応11：対応4と同じように修正しました。

意見12：1～5行目の部分をもっと深堀していって背景に紐づく手法を取り入れていくようにしてみてください。

対応12：対応4と同じように修正しました。

意見13：4行目に「求められます。」とあり、5行目に「必要があります。」はどちらも同じ意味合いですので、どちらが必要なのか絞ってください。

対応13：対応1と同じように修正しました。

意見14：6行目～17行目の手法にあたる部分に、なぜそれをしなければならないのか、その理由が記載できるようになれば手法もまとまってくるかと思います。

対応14：対応4と同じように修正しました。

意見15：6行目「全会員が意見を共有できる環境を整備し、意見を募る…」とあるが、過去に行った議案セミナー等の実践的な手法を取り入れることで建設的な議論の土台をつくることもできると思うので参考にしてみてください。

対応15：対応4と同じように修正しました。

第三回理事予定者会議　2025年11月20日(木)

意見1：「地域の方々に四日市青年会議所に興味をもっていただけるような内容の広報」とありますが、内容だけですか。内容も見てもらわなければ意味ないと思いますが、見てもらうための工夫とかしていきませんか。

対応1：広報に関する記述を見直しました。

意見2：13行目「広報においては、新たなパートナーシップの発掘につなげるために」とあるが、パートナーシップを締結する相手は、会員またはそれ以外の者のどちらか。

対応2：青年会議所の枠を越えて、企業、他団体などとのパートナーシップを締結するための足掛かりとなるような広報活動を展開していきたいと考えています。

意見3：年間事業概要一覧表に財務のことが毎月と記載されているが、基本方針と照らし合わせると毎月財務セミナーを開催するのでしょうか。

対応3：財務セミナーを毎月開催するわけではなく、会計処理などの日々の業務に関する内容を年間事業概要一覧表に記載しております。

第四回正副理事長予定者会議　2025年11月27日(木)

意見1：広報につながる課題が記載されていないので、なぜ広報をしなければならないのかといった視点も踏まえて一考してください。

対応1：広報に関する記述を見直しました。

意見2：Instagramの活用だけでは新しいパートナーシップを発掘することは難しいと思うので、どう広報をすると良いのかも考えてみてください。

対応2：対応1と同じです。

意見3：経験の豊富な方、経験の少ない方それぞれから組織運営としてどうあるべきなのかを一度ヒアリングするなどして考えてみてください。

対応3：本文に「会員から広く意見を聴取し、より合理的な運営方法を提案します」とあるように、今後も継続してヒアリングを行います。

意見4：多様性とダイバーシティの違いについて、理事長所信ではどのように考えられているのかを考えてみて、この基本方針の中ではどちらを使うことが事務局にとって良いのかを考えてみてください。

対応4：理事長所信に「ダイバーシティ社会とは『性別や年齢、国籍や文化的背景、性的指向や性自認などの多様性が受け入れられ、誰もが個性と能力を十分に発揮できるようになっている社会のこと。』を指す」とあるように、「ダイバーシティ」は、社会を形容する言葉として使用されており、青年会議所という組織を形容する言葉として使用すること可能であると考えます。

意見5：2026年度の理事長所信の中で事務局として何をやってほしいのかを改めて考えてみてください。

対応5：あらためて考え、広報に関する記述において出向に言及するなど、見直しを行いました。

意見6：事務局の中でどのような組織運営であれば効率的な組織運営ができるのかを一度考えてみて、良い方法があれば各委員会へ展開して提案していく方法も良いかと思います。

対応6：本文に「会員から広く意見を聴取し、より合理的な運営方法を提案します」とあるように、2026年度において運営方法に関する提案を行います。

意見7：事務局が広報を担う中で発信力の強化は必要不可欠なことなので、どのような工夫をするのかを考えてみてください。

対応7：対応1と同じです。

意見8：背景の中で青年会議所の中の事務局としての課題はあるはずなので、それを深堀りしてください。

対応8：背景に関する記述を見直しました。

意見9：2026年度は出向者が多くいるので、出向者の活躍する場を広報として打ち出して、青年会議所のことを知ってもらう手法というのも良いかと思います。

対応9：対応1と同じです。

意見10：財務状況が逼迫している危機感を共有するのではなく、財務のことを知ってもらい、今後の未来を全会員で創り上げていくことの方がよりポジティブに見えるかと思います。

対応10：財務に関する記述を見直しました。

意見11：卒業式のパートは次代の青年会議所を担うことの自覚ではなく、この卒業式を受けて青年会議所活動へ取り組むためのスイッチが切り替わるような手法を取り入れることの方がより卒業式を開催する意味は深まるかと思います。

対応11：卒業式に関する記述を見直しました。

意見12：「会員の様々な事情に配慮しつつ個人の価値観を尊重し」という文章を見ると、青年会議所活動へ精力的に取り組まなくても良いような印象が見受けられます。

対応12：第1段落で「会員が抱える仕事、育児などの事情に配慮しつつも、互いに協力し、積極的に活動へ参画できるような環境を整え、誰もが活躍できる組織運営を実現する必要があります」と表現を変更し、仕事、育児などの事情を抱える会員も積極的に活動へ参画できるようにすることを目的に含めました。

意見13：1行目にあるように「ダイバーシティの実現」だけでは言葉足らずのように感じるので、どのような社会(組織)の実現を目指したいのかを記載できるとよりわかりやすいかと思います。

対応13：対応8と同じです。

意見14：4行目に「一様ではなくなっています。」とあるが、これまでそのような状態はずっと続いてきていたので、ニュアンスとしては少し違うかと思います。

対応14：「一様」には、大きな差がなく、傾向として同じであるという意味がありますが、この差については、絶対的な指標があるわけでなく、過去と比較して、相対的に差が大きくなっている場合であって、かつ、その差がより分散しているような場合にも「一様でなくなっています」という表現を使用できると思います。

意見15：背景にある内容として、ダイバーシティの実現ができたから多様なニーズに応えられることができたというのは逆説のように感じるので一考してください。

対応15：組織がダイバーシティを実現した場合であっても、例えば、新たに入会した会員から従来と異なるニーズが生まれることもあります。ダイバーシティが実現した組織であれば、そのようなニーズにも柔軟に対応できるという意味です。

意見16：ところどころに「業務」という表現があるが、日頃から行っている活動は「業務」とは少し意味合いが違うので精査してみてください。

対応16：おっしゃるとおりですが、青年会議所の活動の一部には、「業務」と呼べるものもあり、そのような活動を念頭に置いて使用しています。

第四回理事予定者会議　2025年12月8日(月)

意見1：なし。

対応1：なし。